

放課後等ディサービス メイちゃんのおうち 支援プログラム

作成日：令和6年6月1日

法人（事業所）理念		地域において社会生活における問題を抱え支援を必要としている者と発達に問題を抱える幼児・児童に対して、相談支援・療育・保育に関する事業を行い、保健、医療、教育、福祉の増進を図る活動に寄与することを目的とする。	
支援方針		1、日中における活動場所を確保し、利用児の生活習慣の安定と充足を図る。2、利用児の意思や人格を尊重し、利用児の立場に立って放課後等ディサービスの提供の実施。3、障がいの区分、程度、医療的ケアの有無に関わらず、利用児がひとつの場所で一緒に活動を行い、利用児同士の交流を促す。四、地域との結び付きを重視し、関係市町や他の事業所、地域の福祉サービスとの連携を図り、総合的なサービスの提供行う。	
営業時間		午前9時～午後5時まで	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容			
本 人 支 援	健康・生活	年齢が上がるにつれ身体にも変化が起き、心に起きる葛藤が難しくなります。頭ではどうするべきか分かっている、プライドや不安など複雑なきもちに混乱して行動に移せないことも。そんな気持ちに名前をつける、強さに段階をつける、絵にして描いてみるなど、感情を客観してコントロールする練習をします。	
	運動・感覚	緊張や弛緩など、身体のコントロールをする練習をします。また、身体の感覚や様々な感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の動きをコントロールできると、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。ミュージックケアや音楽療法も含まれます。	
	認知・行動	着席、大人をよく見る、話を聞く、嫌な事にも頑張ってみる等、課題に向かう学習の姿勢を支援します。頑張った良かったと感じるようなかわり方や内容を工夫します。情報を適切に処理し、コミュニケーションの難しさから生ずる行動の予防方法も考えます。また、何も無い暇な時間が辛く感じるお子様もいます。待つ時間や余暇の過ごし方も一緒に考えます。	
	言語 コミュニケーション	要求、報告、聴く、模倣、観察するなど、自分も周りも大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけでなくジェスチャーやカード等、子供にあった方法を一緒に考えます。暴力や暴言など、社会的には不適切とされる行動も子供にとって”何らかの問題に対処している行動”ととらえることが出来ます。どんな問題に対処しようとしているのか丁寧に観察しつつ、社会的にも適切な行動を考え工夫し、支援します。	
	人間関係・社会性	ソーシャルスキルの習得を目指します。ソーシャルスキルを使用するとやって良かった・楽しいと感じるなど、良い体験となるように設定を考えています。集団での活動や友達との関りを通して実践的に学び、身に着けます。挨拶、ルール、マナー、礼儀、感謝、謝罪など、社会生活で活躍するスキルも身に着けます。友人、上下、利害、同盟、協力、対立など、集団で発生する様々な人間関係において、相手も自分も大切に行動を選択できるように、一緒に考えます。	
家族支援		連絡ノートを活用で、活動風景を保護者と共有する。定期的に保護者会を実施し、面談相談を行う。	学校や担当相談支援員、各関係機関と連携し、サービス担当者会議に出席する。
地域連携・地域支援		地域イベントへの積極的な参加や放課後等ディサービスの説明会の開催、就業前懇談会等参加を通じて地域との交流の機会を提供。	職員会及びケース検討会を毎月開催。 虐待防止に関する研修への参加。 各種、社外研修等の参加。
主な行事等		▽毎月のテーマに応じた製作活動。▽季節ごとのイベント。▽長期休暇中の所外活動。▽外部講師を招いての体操教室の開催。▽避難訓練	